

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:平成30年度)

施設 の 名 称	宮城県さくらハイツ
指 定 管 理 者 の 名 称	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会
施 設 所 管 部 課 (室)	保健福祉部子ども・家庭支援課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
平成15年4月 ~ 平成18年3月	管理委託	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	
平成18年4月 ~ 平成23年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	
平成23年4月 ~ 平成28年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	
平成28年4月 ~ 令和3年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名 称	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会
	所在地	仙台市太白区茂庭台二丁目15-20
指 定 期 間	平成28年4月1日 ~ 令和3年3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施 設 の 名 称	宮城県さくらハイツ	
所 在 地	宮城県	
設 置 年 月	昭和23年12月	
根 拠 条 例 等	母子生活支援施設条例 母子生活支援施設条例施行規則	
設 置 目 的	配偶者のない女子又はこれに準ずる事情にある女子及びその者の監護すべき児童を入所させて保護するとともに、これらの者を支援することによりその自立を促進し、あわせて退所した者について相談その他の援助を行うもの。	
施 設 の 内 容	敷 地 面 積	7,006.13㎡(その他併用施設の敷地を含む)
	構 造	鉄筋コンクリート造4階建て
	内 容	事務室、相談室、多目的室、保育室、母子生活居室等
開 館 (所) 日	365日	
開 館 (所) 時 間	24時間	
指 定 管 理 者 が 行 う 業 務 の 範 囲	<ul style="list-style-type: none"> ・母子生活支援施設条例第3条各号に掲げる業務 ・支援施設の維持管理に関する業務 ・その他、知事が別に定める業務 	
利 用 料 金 制	採 用 の 有 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	利 用 料 金 の 名 称	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
開館(所)日数	365 日	365 日	365 日	100.0%	100.0%
延べ利用世帯数(月初日在籍)	240 世帯	222 世帯	230 世帯	95.8%	103.6%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
合 計	0 人	0 人	0 人	#DIV/0!	#DIV/0!

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
県指定管理料	61,430	60,822	61,430	100.0%	101.0%
利用料金収入	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
その他	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
収入計 (a)	61,430	60,822	61,430	100.0%	101.0%

(2) 支出

人件費	47,104	46,503	45,446	96.5%	97.7%
施設管理費	8,437	7,315	7,759	92.0%	106.1%
事業運営費	5,889	6,450	6,519	110.7%	101.1%
その他	0	554	1,706	#DIV/0!	307.9%
支出計 (b)	61,430	60,822	61,430	100.0%	101.0%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
前期繰越収支差額				#DIV/0!	#DIV/0!
次期繰越収支差額				#DIV/0!	#DIV/0!

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲すること。

6. 評価対象年度(平30年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
①管理運営体制 人員体制	<ul style="list-style-type: none"> 職員体制については、常勤12名、非常勤2名、計14名。児童福祉施設の設備及び運営に関する基準を満たし、有資格者・社会福祉経験者を配置。 職員研修については、県内外・法人内・施設内研修へ積極的に参加。年間31回、延べ41人参加。(母子生活支援施設関係・DV関係・児童虐待防止学会・心理療法研修・保育技能研修など高度な専門研修に参加し資質能力の向上に努めた) 正規6名、非正規9名(非常勤3名含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 最低基準の職員配置基準を満たし支援の充実を図った。採用に当たり社会福祉士、臨床発達心理士など専門性を考慮し多職種連携により充実した支援に努めた。 支援課題が複雑かつ多岐に渡る為専門性の学術研修や、特別技能研修などに積極的に参加し支援の充実と資質向上に努めた。職員個々の自主研修を奨励し一部費用を補助し自己努力を推進し専門性の向上に繋げた。 困難なケースに対してカンファレンスや検討会等施設内研修に努めた 	S	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理料の範囲内において、入所者への適切な支援に必要な人員体制を確保し、処遇にあっている。 職員研修については、複雑多岐な支援課題に対応出来るよう、多種の研修会へ積極的に参加し職員の資質向上に努めている。また、自主研修の奨励など、日常的に施設長から職員への指導が適切に行われている。 	S
②施設・設備の維持 管理業務の実施	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に職員、利用者共に館内の清掃を行った。 退所時における居室リフォーム、建物・備品関係の修繕、調整など18件実施。 担当者を決め遊具点検を毎月行い法令で定められた期日通り定期的に実施。 排水管の全館一斉高圧洗浄を実施し排水管の詰り水漏れ等の防止、共有スペースの1年に1回ワックスがけを行った 真夏の健康維持のためにエアコンを順次設置に努めた 	<ul style="list-style-type: none"> 職員、利用者共に施設内の環境を意識し、清潔で過ごし易い環境作りに入れた 利用者が安心して生活できるように建物の法定点検や安全点検、居室や共有スペースなど自主的なメンテナンスを今年度も実施した 経年劣化と思われる修繕が多く発生していたが、今年度は全世帯の給湯器の交換や夏の健康維持のために退所居室ごとにエアコンを設置した。 今後も劣化による修繕が予想され利用者の安心した生活のためにも早期の対応を考えている 	S	<ul style="list-style-type: none"> 職員、利用者共に日常的な清掃、点検を行い施設内のより良い環境づくりに努めている。 施設設備の修繕についても、日頃から安全点検に努めるとともに、修繕が必要となった場合は迅速に対応している。 法定点検だけではなく、自主的にメンテナンスを行うなど、適切に施設の維持管理に努めている。 	S
③運営業務(ソフト 事業等)の実施	<ul style="list-style-type: none"> 施設の運営・事業計画に従い実施している。 母親への支援(支援9項目:6,159件)前年比115% 児童への支援(支援7項目:1,590件) // 87% 保育支援(保育室利用延べ:346人)前年比25%(保育園利用児の支援延べ:573人)前年比150% 心理支援(支援5項目:140件) 個別対応支援(母・児童・他:884件) 公的機関連携(165件) 退所者支援(166件 母:117件 子:49件) 	<ul style="list-style-type: none"> 暴力被害を受けた母子や原家族との劣悪な関係からの回復のために個別対応や家族ミーティング等家族ごとの支援に努めた。 自由に過ごせる場所として心理室「ほっこり室」が利用者の自己回復に効果を上げている。 虐待やDV環境での子どもの不安定な養育環境から安心できる生活の為に関係機関と連携し利用者の自立に向けて一緒に考えた 保育園通園児の送迎や母の状況に合わせ家事介入などの養育支援に努めた。 退所者からの相談や家庭訪問、関係機関と連携した見守りなど切れ目のない支援に努めた 	S	<ul style="list-style-type: none"> DV被害世帯に対し、自立支援のみならず母子の精神的ケアなどきめ細やかな対応を行っている。 様々な障害や問題を抱えた利用者等、困難ケースに対しても関係機関との連携により適切な支援の実施に努めた。 退所した同伴児童のアフター支援に積極的に取り組み、継続した自立支援に努めている。 	S
④自主事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> 施設の設定環境から、施設単独の地域支援事業の実施は難しいが、月1回の地域の資源ごみ回収協力や町内会総会の施設内スペースを開放し、地域交流を意識した活動を行った。 退所者支援の事業としての実施は行っていないが、施設業務として退所者支援に力を入れ、地域貢献として子育て支援やイベントにスタッフとして参加。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設の機能上本来の地域母子・ひとり親への支援事業実施が難しい。しかし、地域における相談、支援等の要請もあり母子生活支援施設の支援を活かし必要な情報を提供し地域貢献に努めた。 要保護対策協議会や社会的養護推進計画等に参加し退所者支援を関係機関と連携し実施している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 秘匿性が求められる施設の性質上、地域と密着した支援が困難である中、可能な範囲で地域との交流・支援に努めている。 退所者に対し、ケースに応じて柔軟かつきめ細やかなアフターケアを行っている。 	A
⑤利用者サービスの 向上	<ul style="list-style-type: none"> 365日24時間体制による生活支援を実施した。 毎月初日の在籍230世帯、同伴児423人、合計653人 入所世帯:5世帯13人(前年比2世帯5人減) 退所世帯5世帯17人(前年比1世帯4人増) ①、③にも記載あり。 職員会議・合同処遇会議・ケース検討会・研修など積極的に実施。 福祉サービス第三者評価における自己評価を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 24時間体制で利用者の安心と安全を保障し、対応の迅速化と支援の充実を図っている。 年2回の家庭面接や自立支援計画の見直しなど、今後の生活の見通しを利用者と話しをし個々の家庭事情に合わせた支援を実践している。 利用者の支援向上の為に職員の経験年数に応じて研修を計画。利用者の課題解決や精神的回復のための専門性を身に付けるよう努めた 社会的養護関係施設として福祉サービス第三者評価制度に基づく自己評価を職員全員で行い支援サービスの向上に努めた。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 入所者個々の実情に応じたきめ細やかな支援が行われている。 家庭面接や自立支援計画の見直しなど、入所者と常に話し合いを持ち、入所者の意思を尊重しながら自立に向けた支援を行っている。 研修の積極的な受講、第三者評価の受審等により、サービスの質の向上に努めている。 	S
⑥利用者の苦情、 要望等の把握 とその反映	<ul style="list-style-type: none"> 日常の苦情、要望等はその都度対応している。 利用者アンケートを年2回実施。 母:質問12項目、子:質問4項目、他自由記載 母28人(良い274、普通13、いいえ2) 子24人(良い57、普通12、いいえ4) アンケート結果を全職員間で共有、検討の実施 利用者からの要望については、その都度職員会議で協議し検討を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の声掛けや日頃の関わりや何気ない会話や子どもとの関係性などを確認し家事介入やなど個別対応を大事に、し要求や要望には早期対応に努めている。 アンケートの自由回答等文章の方が伝えやすい利用者もあり、意見や要望を聞く為の意見箱を設置し苦情、要望等しやすいよう工夫に努めている。 今年度の苦情解決制度の利用は、なかった。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 入所者からの苦情や要望に対し、常に誠実な姿勢で迅速な対応に努めている。 アンケートの自由回答や意見箱の設置など、利用者の個別の要望を引き出す工夫がなされており、利用者への配慮に努めている。 	S
⑦安全対策	<ul style="list-style-type: none"> 防災点検として毎朝各部屋の見回り、電気、ガス、ストーブ、こたつ等の確認を行っている。 定例会集会でストーブの安全な使い方や感染症の徹底予防について喚起周知を徹底。 危機対応管理・感染症対応マニュアルの整備 関係機関合同での防災会議を実施し 防災訓練:年12回実施(総合訓練2、避難12、消火1、放水1通報2、防犯2、)を行う 非常用備蓄物品の整備 業者の3年に1回遊具の安全点検職員が毎月点検 不審者対応のための警察との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 居室の安全確認と啓発により火災事故、交通事故等は発生していない。 危機管理についての様々な情報をもとに職員全体で情報を共有し強い危機意識を持って利用者の安全確保に努めた。 不審者訓練(防犯訓練)を2回実施し非常時の体制を確認。緊急対応を常に心がけている 児童の安全対応については、保護者、保育所、学校と連携し、入所時の安全確保、新入生への登下校時の同行支援や安全指導など安全を守る支援に努めた。 安心して生活のために常に点検を心がけている。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 危機対応マニュアルの整備や防災訓練の実施等、安全対策が適切に実施されている。 職員全員が危機管理に対する意識を高く持ち、不審者対応訓練を行うなど、利用者の安全確保に努めている。 	S
⑧県民の平等利用	<ul style="list-style-type: none"> 県内全域の福祉事務所から利用受け入れを行い平等性を確保しながら、緊急性の高い利用者を、迅速かつ積極的に受入れた。 今年度は支援を必要とする方に福祉事務所直接面談しアウトリーチとして情報を提供し施設を紹介。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も県内福祉事務所からの問い合わせが多くあり、さくらハイツの支援を活かし対応した。 緊急性が高いケースや施設を必要とする世帯についてDVDで施設を紹介し情報を提供。母子統合に至った家族が早く情報を知っていたらよかった、と話し今後も積極的に福祉事務所への情報提供に努めていきたい。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 円滑に入所者の受入を行うよう努めており、入所に至らなくとも福祉事務所からの相談を受けるなど支援の協力を工夫している。 緊急性の高い世帯の受入体制の確保、支援を必要とする世帯に対し適切な対応を実施している。 	S

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護管理規程や施設の倫理綱領や基本理念の遂行に努め保護に努めている。 関係機関などから情報漏洩が起こらないよう、十分に状況を説明し協力を要請している。 利用者に対して、自分や他者の安全を守る意味を個人情報の重要性を入所時に説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の規程を職員会議で共有、徹底した管理に基づく情報の漏えい防止に努め、関係各所に十分説明を行い取扱いの確認をするなど個人情報の取扱いは慎重に行った。 利用者同士の個人情報の伝え合いが安心した生活を脅かす事になる事を伝え情報の交換について理解と協力を求めた。 職員会議で個人情報取扱いの規程を基に記憶媒体による情報の持ち出しや他機関への情報の取扱いを厳しく指導している。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護管理規程等が職員に十分に周知され、職員の個人情報保護に関する意識が非常に高い。 外部に対する情報漏えい防止対策が徹底されている。 利用者に対する個人情報取扱いの説明など、情報管理に細心の注意を払っている。 	S
⑩利用実績	<ul style="list-style-type: none"> 項目⑤に記載 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急性の高い世帯が多く、福祉事務所からの入所依頼に対し公平で平等な受入れを行った。 入所実績は昨年と同等であった。相談者の為に利用の案内のDVDを作成し見てもらい母子統合が実現。緊急時の相談に常に応じアウトリーチに積極的に努めた。 入所課題が複雑且つ重症化し支援も多岐に渡りケア会議など関係機関と連携できた事は評価したい。 	S	<ul style="list-style-type: none"> DV被害世帯等、緊急的に保護する必要がある世帯の入所依頼が多くあったが、適切に受入を行った。 退所実績は入所実績とほぼ同数となり、施設における自立支援の取組の成果とみられる。 入所希望者が抱える問題が複雑化し、支援の困難性が増しているが、引き続き対応力の向上に努め支援の充実に取り組まれたい。 	S
⑪収支実績	<ul style="list-style-type: none"> 上記5に記載 	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革として超勤の軽減に職員全員で取組み必要な予算経費に充当、職場環境改善に努め、支援の質的向上を図りながら管理経費の節約削減に努めた。 運営と充実した支援に努め費用対効果から今年度事業は計画通り達成したと評価している 家族再構築を目的とした家族単位の行事を予算化、家族の喜びが家族の連帯感に繋がり家族の自立に繋がっている 	A	<ul style="list-style-type: none"> 利用者への支援体制を確保しながら、管理経費等の削減に努めている。 	A
⑫その他の取組	<ul style="list-style-type: none"> 地域要対協、各学校などでの委員や役員として地域の要保護家庭や要保護児童への支援に協力。 大学、専門学校などからの要請で母子生活支援施設について講義し啓蒙活動に努めた。 保育実習を受入れ人材育成に取り組んだ。 県の環境保全率先実行計画に基づいた環境配慮実践事業所の認定を受け、省エネ、ごみ減量化、リサイクル等への取り組みを継続実施。 地域のひとり親家庭支援に対して関連機関と協働して、アウトリーチとして母子生活支援施設の情報を提供した。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に地域や関係各所に母子生活支援施設の支援の情報を提供し必要な方に情報を提供してもらうよう啓発に努めた。入所に繋がった方もおりアウトリーチとして母子生活支援の役割と必要性を伝えていく事が今後の施設としての使命と利用者から学んだ。今後も関係各所に参画し地域支援として協力したい。 今年度も県が奨励している環境配慮実践事業所として認定を受け、環境配慮行動の取り組みを施設全体で実践したい。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 県の環境配慮実践事業所の認定を受けるなど、積極的な環境配慮の取組みが評価できる。 母子家庭支援プログラムに参画するなど、地域交流・支援の充実という観点からも、ひとり親家庭に対する支援への努力が認められる。 	S
		<ul style="list-style-type: none"> 親子で障害を抱える家族や暴力的被害の影響と思われる不安定な母子関係が多く、家事や養育介入や専門的知識と対応スキルが要求され、研鑽を積み、専門機関と連携し、社会資源を活用し支援ができたことと評価している。 家族のメンタルケアとして家族ミーティングや家族ごとの行事計画など心理支援に取り組んだ。 福祉事務所からの問合せや相談も多く実績を活かしアウトリーチとしての役割も果たし、最大定員の運営が可能になるよう施設運営に努めた。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 障害を抱えた母子や多子家族世帯、その他様々な状況の世帯が入所している中、個々の実情に応じたきめ細やかな支援を最大限行う努力をしており、利用者へのメンタルケアの充実など、常にサービスの質の向上を考えた取組みを行っている。 施設退所後も児童が地域生活に円滑に移行できるよう、関係機関と連携したアフターケアが実施されており、入所してから自立するまでの一貫した支援が評価できる。 	S

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	<ul style="list-style-type: none"> 民間の母子生活支援施設の処遇改善費が認められており、民間施設と同様に措置費に基づく職員の処遇改善が適正に実施できるよう適時協議、要望していきたい。 不審者対応の安全対策とし玄関ドアの自動施錠設置の改善の方策を検討していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 人件費について、施設の適切な運営が確保されるよう検討を行っていく。 玄関ドアの自動施錠設置については、入所者の安全が確保されるよう必要に応じて検討を行っていく。